

# (A) 肋骨骨折

※柔理テキスト P144~149

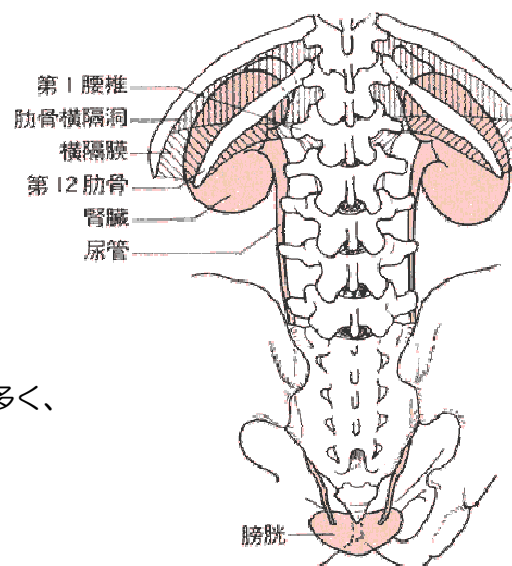
## [原因]

- ①直達外力…骨折部の転位は胸郭**内方凸**の転位となる
- ②介達外力…胸郭**外方凸**の転位となる  
(弾力性以上に圧迫されるため)  
骨粗鬆症…激しい咳、くしゃみ

☆好発部位…第5～8肋骨に多く、特に**第7肋骨**に多い  
疲労骨折（ゴルフスイング）：

右利きの方は**左第2～第9肋骨角（背部）**付近に多く、  
特に第5.6に多い

※第1・2肋骨および11・12（浮肋骨）は稀



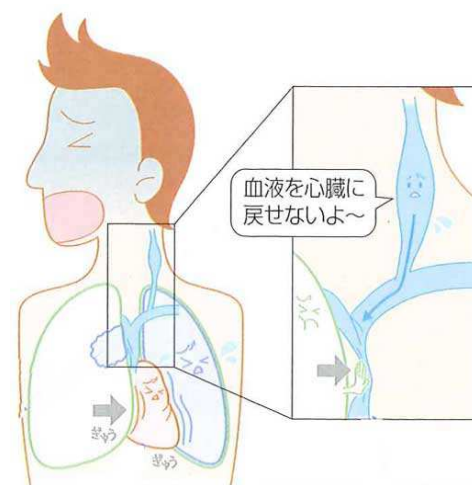
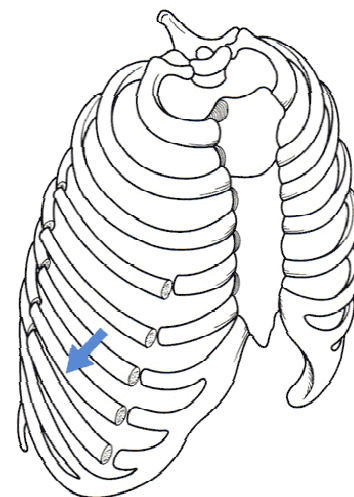
a. 横膈膜と脊柱に対する位置

## [症状]

- ①疼痛…深呼吸,咳,くしゃみにより激増する 胸郭の圧迫（介達痛）
- ②軋轢音…深呼吸時
- ③転位と変形…多発骨折以外あまり転位を認めない場合が多い

## [合併症]

- ①**胸壁動揺** : 1本の肋骨が**2カ所以上**で折れ、  
しかも隣接する数本の肋骨に及ぶと  
胸壁の支持性が失われ、胸壁動揺がみられ  
呼吸困難になる
- ②**外傷性気胸** : 外傷により胸膜が損傷して内臓が圧迫され発生  
この中でも**緊張性気胸**では、胸膜開口部の弁様作用で  
空気は吸気時に胸腔内に流入できるが  
呼気時に開口部が閉じ流出できなくなり、  
縦隔は著しく健側に圧排される（縦隔偏位）  
呼吸困難は強く、静脈環流障害を生じ、死に至ることもある
- ③**血胸** : 肺破裂、肋間動脈損傷、内胸動脈損傷で発生する
- ④**内臓損傷**
- ⑤**その他** : 背部からの第11・12肋骨部の強打により、  
腰痛・血尿などのある場合は腎損傷の疑い



**緊張性気胸**

## [治療（固定法）]

完全な**呼気**状態の時、すばやく幅5cmの絆創膏を前後**正中線を越え**  
健側から始まり健側に終わる範囲に貼付する  
屋根瓦状に順次**上方**に向かって貼付する

☆予後…不全骨折は呼吸運動時の疼痛が軽度  
完全骨折も一般に予後良好

不良となるのは合併症のあるもの。とくに胸膜・肺に損傷がある時には癒着を残す。  
過剰仮骨形成も肋間神経痛の原因となる